

「感じ」「動き」「かわる」…新たな未来におかって！



さくらの学校だより

平戸市立田平東小学校 学校だより 令和8年1月26日 文責：校長 森川 稔

全国学校給食週間

毎年1月24日～30日は「全国学校給食週間」です。

日本の学校給食は、1889年(明治22年)に山形県鶴岡市で始まりました。貧しい子どもたちのために、おにぎり、塩鮭、漬物を提供したのが最初とされています。その後、第二次世界大戦により一時中断された学校給食は、戦後の食料不足と子どもたちの栄養状態悪化を受け、世界各国からの支援により再開されました。1946年(昭和21年)12月24日にアメリカの団体からの物資贈呈式が行われ、この日が「学校給食感謝の日」と定められました。

「学校給食感謝の日」が冬休み期間と重なるため、1950年(昭和25年)に文部省(現在の文部科学省)の通知により、1月24日から30日までが「全国学校給食週間」と定められ、1951年(昭和26年)から実施されています。

毎日当たり前のように食べている給食ですが、そもそも学校給食の役割について、次の3つがあると考えます。

- ①栄養バランスの提供: 子どもたちの心身の成長を支える栄養バランスの取れた食事を提供します。
- ②食育の推進: 食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につける「生きた教材」としての役割があります。
- ③地域との連携: 行事食や郷土料理、地元の農産物を取り入れ、食文化への理解を深めます。そこで、給食で子どもに与えたり学ばせたりできることは何だろうか?メニューを見ながら考えてみました。

- 1 栄養たっぷりのメニューで健やかな体をつくる
- 2 夏野菜カレーや秋味シチューなどで季節を感じる
- 3 中央アメリカ産の野菜で寒冷気候と無農薬農業の工夫を学ぶ
- 4 アジフライ、新鮮な魚などで郷土平戸(松浦)の文化に触れる
- 5 みんな同じメニューの笑顔の会食で、人権意識を身に付け友達をつくる
- 6 適切な量の配膳と時間内の完食、片付けでわがまも好き嫌いをなくす
- 7 なにより、湯気が立つ給食で人の温かさと“ありがとう”の心に気付く



給食は、その美味しさに加え、こんなに多くのことを教えてくれます。知識と心、そして体、言い換えれば食を通して人を育てるのが給食といえるのかもしれませんが。

コロナ禍以降、学校においても、黙食という雰囲気定着し、以前ほどではありませんが、普段

の給食は基本的にみんな前を向いて静かに食べる様子がうかがえます。しかしその分、メニューを見つめ、しっかり味わい、食材や生産者、調理してくれた人に想像を働かせる余裕が生まれています。給食指導の可能性を感じます。

期間中、本校では調理員さんやパン屋さん、牛乳屋さんなど給食に携わって下さる方々へ感謝の手紙を書いたり、給食集会、縦割り班ふれあい給食を計画したりしています。感謝の気持ちを伝えつつ、たくさん食べて元気な心と身体をつくる機会にしていきたいです。

中学校入学説明会

4月から中学校に進学する6年生が、田平中に行き、入学説明会を受けてきました。会場では、中学校の校長先生や担当の先生から入学に向けた説明などを聞き、4月からの中学校生活を思い浮かべているようでした。子どもたちは授業の様子を見たり校内を見学したりしたかったようですが、今後は小学校において卒業に向けた取組をしつつ、進学に向けた準備もしていきたいと思います。



地元の歴史や昔の道具にふれてきました

3年生は、社会科の学習の一環として、里田原歴史民俗資料室を見学しました。地域の歴史や人々の暮らしについて学ぶことを目的に、実物の資料を通して学習を深めました。

見学では、資料室の先生方から、この里田原の地が約2000年前には遺跡であり、人々が生活していた場所であることを教えていただきました。子どもたちはそのお話に興味津々で、展示を見ながら「どうしてこんな形をしているんですか」「これは何に使われていたのですか」と、次々に質問をしていました。

館内には、土器や石器、昔の古い生活道具などが展示されており、実際に使われていた本物の資料を間近で見ること、教科書だけではわからない当時の人々の暮らしを実感することができました。特に、昔の人が石の種類を目的に応じて使い分けていたことを知り、「昔の人はとてもかしこいね」「よく考えて生活していたんだ」と感心する声が多く聞かれました。校区周辺には、古墳等の遺跡もあります。自分たちがくらしているこの田平地区の歴史について探訪してみるのもいい学びにつながると思います。



田平東小HPはこちらから→

